

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	36	学 校 名	静岡県立静岡東高等学校	校 長 名	鈴木伸彦
------	----	-------	-------------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組 目標		成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	授業改善と学力向上	教員の授業参観 年3回以上 100%	2学期までの全教員を平均した参観回数は2回以上であり、目標はほぼ達成できると考えられる。	B	個々の教員の間には参観回数に差もみられるので、「授業参観週間」などをさらに活用していきたい。	研修
		「授業を通して新たな知識や考え方を身に付けることができた」と答える生徒割合 全科目で70%以上	1学期末に実施した授業アンケートを集計した結果、各学年の全科目で70%以上を達成できた。	A	今年度のアンケートの結果をふまえ、来年度は目標を全科目75%以上に設定したい。	研修
		教員の教科指導セミナー参加者人数 5人以上	駿台予備校によるセミナーを、国語・数学・英語・理科・地歴それぞれ1名の教員が受講した。	A	コロナ禍により、今年度もオンラインによる受講となった。今後も、このような形式が主流になると考えられる。	研修
		教員による先進校訪問 4人以上	岡山県立瀬戸高校・岡山県立倉敷青陵高校へ2名派遣	-	当初、岡山県立瀬戸高校と倉敷青陵高校への訪問を企画していたが、新型コロナウイルス感染症のまん延で、中止となってしまった。次年度の訪問の約束は取り付けている。	管理職
		1・2年家庭学習時間 平日1日平均2時間以上	学年部記述を参照のこと。	C	家庭学習時間の減少は否めないが、決定的な対策がない。教科と連携しながら意識付け等の改善を図りたい。また学習時間調査そのものの見直しも検討する。	進路
			1年の1日平均学習時間は、1.6時間であった。	C	継続的に学習を行う生活習慣を身に付けさせたい。	1学年
			4月は平日平均1.8時間、10月は1.7時間であった。	B	受験生としての意識を高め、学習時間を増やしたい。	2学年
		1・2年11月進研模試 偏差値平均 55以上	学年部記述を参照のこと。	B	今年度はワクチン接種による追試が多かった。それが偏差値へ影響している部分もある。	進路
			1年は、国語 52.5、数学 56.8、英語 53.9 で国数英総合 55.1 であった。	B	1年は、数学は7月よりもアップしたが、国語と英語がダウンした。継続的な学習により、安定した成績が出せるようにさせたい。	1学年

様式第3号

		5 教科総合 54. 3、国数英総合 56. 1、国語 54. 7、数学 57. 9、英語 54. 4 であった。	B	受験生としての意識を高め、さらに頑張らせたい。	2 学年
	大学入学共通テスト平均点 全国平均+ 5 % 以上	6. 7%	A	世界史B、倫理政経、化学で平均点を下回った。補講の希望がいずれも少ない科目であり、心配していた通りの結果になってしまった。	進路
	3 年予備校DVD講座 参加者数 30 人程度	参加者 13 名	C	難関大を志望する生徒少なく、出席状況も今一つであった。費用対効果の点で疑問がある。来年度以降も継続するようであれば、受益者負担も考えるべき。	進路
	学習支援プラットフォーム (Classi) の学習指導への活用	模試結果を Classi で配信した。模試等の結果分析を行い、生徒個人個人にコメントを送った。	C	Classi の活用の仕方を検討していく必要がある。	進路・1 学年
	学習支援プラットフォーム (Classi) の学習指導への活用	定期テストの目標設定、振り返りを行い、テストに向けての意識づけを行ったが、組織的な利用法までには至っていない。	B	さらなる有効な利用法を模索したい。	進路・2 学年
		主に紙媒体や Googleclassroom を使用し、Classi を活用している割合は低い。	B	読書、小論文指導、小テスト、生活記録の相互評価、模試の振り返り、志望校の選定シート作成に活用した。	進路・3 学年
	新教育課程共通テストに対応する体制の確立	令和 4 年度入学生の新教育課程におけるカリキュラムはほぼ完成した。	A	新教科「情報」の共通テスト対策については今後も調査研究の必要あり。東セのまとめ取りによる 3 年次の 0. 5 単位分についても引き続き要検討。	教務
	3 年間を見通した進路指導計画の検証と改善	進路指導計画の検証、改善は特になかった。	C	観点別評価の導入による定期試験の扱い等も含めて、来年度に検討する必要がある。	進路
	東陵セミナーにおける探究的学習プログラムの充実とパフォーマンス評価の検証と改善	外部機関との連携をはかり、探究学習を実施した。ルーブリックの改善を行った。	B	計画的な実施はできたが、身に付けたい力を明確にして探究のプロセスを意識した探究学習計画を組織的に行い、SDGs 達成に向けて学校全体で意識を高めていく必要がある。生徒の将来の学びにつながるよう、外部機関との連携方法を工夫していく。	探究
	Classi による活動履歴蓄積の推進	定期テストの目標設定・振り返り、各行事の振り返りを Classi のアンケート機能に記録した。	A	生徒が、目標設定や振り返りを行い易いアンケートの精選が必要である。	1 学年

様式第3号

			探究学習の活動内容を蓄積するように指示しているが、ほぼそれのみである。	B	教科の学習などでも、活動履歴を蓄積できるようなやり方を模索したい。	2学年
			共通テスト対策は、授業での演習や補講を中心に行い、Classi はほとんど活用しなかった。	C	活動の履歴の蓄積を調査書・推薦書作成に役立てた。学力の3要素を基盤に体制づくりをする必要がある。	3学年
イ	志の育成と進路目標への挑戦	大学模擬授業 生徒満足度 各 90%以上	満足度 94%	A	緊急事態宣言下での開催であったが、県外からも講師の先生方に来ていただき、生徒にとって貴重な経験となった。次年度もコロナ対策を考えつつ実施したい。時程についての検討も必須である。	進路
		大学訪問 生徒各自の目標達成率 100% (オンライン等代替も含む)	新型コロナウイルス感染拡大によって、大学見学ができなくなった。オンラインでの開催に積極的に参加した生徒は少なかった。	C	大学を知る機会を積極的に見つけていくような意識づけをしたい。	2学年
			シゴトガイダンスと学部学科ガイダンスを行った。	C	将来の職業や大学について考えたり、調べたりする時間が十分に確保できなかった。	1学年
		大学入学共通テスト5教科型受験率 80%以上	国立大学型 (6-7 文系、5-7 理系) の割合が 78.8%。文系 70.7%、理系 89.5%であった。5教科型で考えると 80%は超える。	A	主体的な進路選択ができる能力という目標と、五教科型受験率という指標がどのように関わっているかわからない。国公立大学の数を考えるなら、合格者数の項目があるため、ここは不要か。	進路
		ハイレベル模試受験者数 学年各 30 人以上	ハイレベル模試の受験者は 20 人であった。	B	英検と日程が重なったこともあり、受験希望者が目標人数に達しなかった	2学年
		県内国公立大学合格者数 50 人以上	静岡大学 30 名、静岡県立大学 24 名、静岡文化芸術大学 8 名。計 62 名。	A	担任の指導と共通テスト後の補講の成果により目標を達成できた。	進路
		国公立大学現役合格者数 卒業生の 50%以上	130 名。47.3%。	B	過去の実績を考えると 50%はとても高い目標である。このため 47.3%という結果は、かなり実績を残せたと言えるものである。評価をAとしてもよかもしれない。	進路
		難関国公立大学 (※1) 合格者数 10 人以上	8 名。	B	数は達成できなかったが、京大、一橋大、東工大などに合格者を出すことができたことは評価できる。	進路

様式第3号

	難関私立大学（※2） 合格者数 90人以上	91名。	A	前年度の96名には及ばなかったが、慶應義塾大3名、早稲田大4名の合格者を出すなど、成果は大きかった。	進路
	「専門教養講座」の単位取得生徒数 10人以上	昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症対応のため、大学から開講できないという連絡があった。	-	新型コロナウイルス感染症の終息と、来年度は各大学での講座が開講されることを期待する。	教務
	生徒個人面談回数 年間5回以上	年間5回以上の個人面談を行った。	A	入学当初や文理選択決定時に個人面接を行うことで、生徒一人、一人を把握し、相談に乗る事ができた。面談時間を確保するために、昼休みを長くすることを検討すべきである。	1学年
		生活指導週間の設定に従って、年間5回の面談を行っている。	A	クラス編成のためにも生徒の現状を把握することが必要である。担任が忙しい中で、時間を作って行っている現状である。	2学年
		昨年と同様の実施時期に加え、進路指導のための二者面談や、共通テスト前後の三者面談も行った。	A	生活指導週間だけでなく、大学決定シートや受験計画作成のため、随時実施した。	3学年
	静岡大学実験実習講座 参加者数 20人以上 満足度 90%以上	理学部はコロナ禍で中止となり、農学部のみ冬休みに実施した。12名の生徒が参加し、満足度は100%であった。	B	夏休みに予定されていたが、コロナ禍で冬休みに延期して実施した。1年生を中心に募集するが、内容のレベルから考えると、2、3年生を対象にする方がよいように感じる。	理系高大連携
	修学旅行生徒満足度 各コース 90%以上	「満足した」76.7%、「だいたい満足した」22.9%で、合わせると99.6%の生徒が満足したと回答した。	A	事前研修やSDGsをどのように取り入れるかには課題が残った。	2学年
	SDGs等に関する各種 外部コンテストプレゼン大会に参加する生徒 20人以上	WWL 高校生グローバル課題研究ポスターセッション大会10名、アイセル卒論探究発表会10名、高校生探究サミット5名、静岡市ユースサミット1名	A	校内だけでなく校外での発表会に参加できた。外部機関との連携を深めて、さらに多くの発表の機会を提供することも考えている。	探究
	留学生交流会の実施	1年生で国際ことば学院と協力し、日本在住の留学生の母国のプレゼンテーションをクラスごとで聞いた。	A	活発な質疑も行い、他国の文化を知ることができたとともに、国際交流の機会を得ることができた。	総務

様式第3号

		エンパワメントプログラム 参加者数 30人以上 満足度 90%以上	5月時点での申込者は10人であったが、コロナウイルス感染症の蔓延により、夏に実施予定だったものが冬に延期となった。(日数も5日から3日に短縮)日程変更や部活動を優先したいという理由により、最終的な参加者は4人であった。	C	コロナウイルス感染症蔓延により延期になった点や、海外大学生や留学生の招へいに制約がある中、6校合同で開催できたことを評価したい。	進路
		英語外部検定 CEF R B1 レベル 60人以上 A2 レベル 500人以上	「実用英語技能検定」と「GTEC」を実施。B1 レベルは約80人、A2 レベルは約700人である。	B	実用英語技能検定「2級」は易化しているので、成績上位者は「準1級」合格を目標にする。「GTEC」については現在「アセスメント版」を実施しているが、「検定版」の実施を検討している。	英語科
ウ	自主自立の精神と豊かな人間性の育成	遅刻生徒数 1日平均 全校で5人以下	1日平均全校で8.9人(1/12現在)となった。特に3年生では、6, 9, 10, 11, 12月の遅刻者が目立った。	C	昨年度(4.9人)より大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われる。	教務
			常習的に遅刻をする生徒はいない。	A	次年度も継続できるよう指導を続けていく。	1学年
			通院や体調不良による遅刻が二、三日に一人程度あるが、遅刻はほぼない状態である。	A	朝学習に遅刻する生徒は週に数人いて、その生徒たちへの指導は引き続き必要である。	2学年
			朝学習の時間に遅れる者が減らなかった。	C	遅刻に対する意識を高める指導を継続的に行う必要がある。	3学年
		東陵祭生徒満足度 80%	一般公開中止、リモートでのHRP観戦のため、70%程度	B	行事の縮小や変更を余儀なくさせられたが、対応できた。次年度も生徒の健康面に最大限配慮し、限られた時間や施設を活用したい。	生徒
		「自ら進んで挨拶をしている」と答える生徒 90%	概ね良好であり、90%程度	A	校風委員中心に挨拶運動を展開。年間を通じて達成できた。	生徒
		各部活動の目標達成率 80%	年度末に調査実施	—	大会の中止や延期もあり、活動機会が制限された。	生徒
		最終下校時間 19:30 の遵守	良好である。保護者から部活動終了時間についての問い合わせもなかった。	A	体育館や部室などの施設の徹底を強化したい。	生徒
		「高校生活指導プログラム」による系統的な初期指導とクラス目標づくりの実施	入学当初に高校生活に関する初期指導を行うことができた。	B	初期指導に関して効果的な日程設定を検討する必要がある	1学年

様式第 3 号

			系統的な初期指導はそれほど意識しては行わなかった。	B	毎日の指導の中で、品位ある生活態度を育んでいる。	2 学年
			「高校生活指導プログラム」が実態に合わなくなったため、実質的に活用しなかった。	C	実態に合った「高校生活指導プログラム」の見直しが必要。	3 学年
		情報モラル講座の実施	ネット依存度調査、それに基づく講演会、三者面談や長期休業前後での事後指導を行い、年間を通じて実施。	A	費用負担や生徒・保護者・職員の労力の観点から、次年度は講演会のみ予定。	生徒
		情報モラル関連の生徒指導 0 件	現在指導中事案 1 件あり	B	生徒 1 台端末のルール作りおよびスマホ使用規定見直しの必要性あり。情報モラル指導は継続して啓蒙していきたい。	生徒
			生徒指導の対象は 1 件。SNS 上での誹謗中傷書込みがあった。	B	情報モラル教育講座等を通して、人権意識の啓蒙を継続して図っていく。	いじめ防止委
		文化教室 生徒満足度 80%以上	文化教室の生徒満足度は 95%を上回った。	A	来年度は文化教室という形式ではなく生徒参加の講演会が行われる予定である。計画的に実施し、成功させたい。	図書
		ビブリオバトルの実施	教員のデモンストレーションに始まり、クラスの予選、本選と図書委員を中心に順調に進行した。	A	図書委員が、より自発的、積極的に運営の中心になるように促したい。	図書
		図書館の貸出本冊数 5,000 冊以上	貸出数の総数は 1 月 11 日時点で 9,389 冊であり、本年度も 10,000 冊を上回ると思われる。	A	選書、発信、配架等に対して今まで通り尽力して、生徒が足繁く通い、書籍を借りていく図書館でありたい。	図書
エ	命を守る教育の推進	重大な生徒交通事故件数 0 件	重大事故 0 件	A	交通事故報告は 10 件と例年並み。交通指導カードをもらう生徒が市内他校より多く、学校周辺一旦停止指導が殆どである。交通委員会を中心に対策を考えていきたい。	生徒
		保健便りの発行回数 15 回以上と発行方法の工夫	令和 4 年 1 月時点、保健だよりを 18 回発行した。年度内に 20 回発行予定。ホームページ掲載およびカラー版を教室掲示した。	A	発行日に保健委員から保健だよりの概要と関連した保健情報をクラスで伝達するとともに、保護者への伝達を呼び掛けたことで、保健だよりの認知向上につながった。	保健

様式第3号

		養護教諭による集団を対象とした保健教育の実施	6月に1年生2クラスを対象とした保健を、11月に1年生全体を対象とした思春期講座を実施した。	A	実態把握、実践、評価を保健情報と関連させて行うことで充実した健康教育を行うことができた。指導実践を踏まえ、保健室における個別の保健指導につなげることができた。	保健
		グループエンカウンター（1年生）の実施	各クラスに事前に指導案を提示し実施することによって、年度初めのクラス経営の円滑化に資することができた。	B	全クラスで実施できたが、実施方法が様々あるので、より本校にとって適切な実施形態を考えて精選していきたい。	教育相談
		セラプラスの実施と活用 全学年	5月中旬に全学年を対象に、長期欠席中の生徒以外はすべて実施することができた	A	検査結果を知ることにより生徒理解が一定程度深まった。また、面談や日常の生徒指導・支援に活用することができた。これまでは、週テストの20分で実施していたが、それがなくなるので、適切な実施方法を検討する必要がある。	教育相談
		1分間カウンセリング（1年生）の実施	実施に係る効果、コロナ禍による密を回避した場所の確保、生徒の待機時間及び教員の業務負担量を考慮し、本年度は「相談室連絡会議」の機能を十分に活用することにより、個々の「生徒の課題や問題点を把握」することとし、一定の成果を上げることができた。	B	「相談室連絡会議」の機能を十分に活用することにより、個々の「生徒の課題や問題点の把握」が一定程度達成できた。次年度においても、1分間カウンセリング（1年生）の実施にはいくつか課題がともなうので、「相談室連絡会議」により、個々の「生徒の課題や問題点を把握」する方向で検討する。	教育相談
		地域防災訓練への生徒参加率 80%以上	地域防災訓練への参加率は36.9%（前年度12.8%）	B	新型コロナウイルスの影響で訓練の参加を見合わせたり、実施しない自治会が多かったりして、参加者は少なかった。不参加者の防災レポートは全員提出した。	総務
		一斉メール配信を活用した安否確認訓練の実施	安否確認のテストメールに対して83.47%の生徒・保護者が返信した。	B	100%が理想であるので、年1回のテスト配信ではなく、複数回実施するなどの方策を模索したい。	総務
オ	広報活動の充実と教	土曜公開授業の参加者数 計1,600人以上	参加者総数は1,270人であった。（緊急事態宣言で2回中止となったため、予定より500程度少ない。）	B	キャンセルの扱いについて検討したい。係分担を毎回同じ職員に依頼しており、業務の分担に偏りがある。	管理職
		土曜公開授業外部評価満足度 90%以上	参加者アンケートによる満足度は90.3%であった。	A	来校者からの要望や、公開日の持ち方に対する職員の意見も様々であるが、総合的に勘案し、現在の形での改善を目指していく。	管理職

様式第3号

育 環 境 の 整 備	土曜公開授業での校内 美化点検の実施	学校公開日前日に清掃の徹 底を呼びかけるとともに、当 日朝には美化委員会による 点検を実施した。	A	本年度のやり方を来年度以降も 継続して実施していきたい。	保 健
	HPのタイムリーな情 報発信と週2回以上の 更新	HP はほぼ毎日更新し、生徒 の活動の様子を発信した。	A	引き続き、生徒の日常を発信し、 地域、保護者、中学生にアピー ルする。HP のデザインを工夫す る。	情 報
	HPにおける各部活動 の活動報告 学期1回 以上	部活動の活動報告は、令和3 年12月現在、51件。紹介動 画を、24部活がHPに公開し た。	A	積極的に発信している部活動は 限定されているので、各部活動 にHPの利用を呼び掛ける。	情 報
	事務室窓口へのクレーム 件数 0件	室として臨機応変に対応す ることにより、クレーム0件 とすることができた。	A	次年度も継続できるよう努力す る。	事 務
	月1回の安全点検の実 施	学期に1度の点検を実施す ることができた。	B	来年度以降、より丁寧な点検を 実施できるよう検討したい。	保 健
	ごみ処理費前年比減	教室のごみ箱の撤去、ごみの 持ち帰りが定着してきた。	A	生徒たちにごみの処理の方法が 浸透してきているので、来年度 以降も周知、徹底を図りたい。	保 健
	「信頼できる先生がい る」と答える生徒 80% 以上	生徒アンケートによる評価 は81.2%であった。	A	学年が上がるにしたがって、数 値が上昇しており、指導に対す る信頼が得られている。	管 理 職
	学年主任連絡会の実施 3回以上	学年主任連絡会は開くこと が出来なかった。	C	各学年主任とは常日頃から情報 共有に務めていることから、特 に開催の必要はなかった。	管 理 職
	校務分掌部活動の統廃 合による校務の整理	新聞部と放送部を報道部へ 統合した。	B	部活の統廃合が一步進んだこと は評価できるが、校務分掌全体 の整理は進んでいない。	管 理 職
	各種調査、教材研究等 積極的に ICT 機器を活 用し、校務の効率化を 図る	毎日の健康調査、行事の後の アンケート調査などに、 Classi や GoogleForm を利用 した。	A	学習時間調査などにも Form を 利用できた。校務の効率化に ICT 活用を進めたい。	情 報
	授業や探究に Zoom を 活用し、交流や発信を する	台湾との交流事業などに、 GoogleMeet を利用した。授 業における ICT 利用も徐々 に広がりつつある。	B	生徒一人一台 PC に向けての準 備を急がなくてはならない。	情 報

※1 北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州、東京工業、一橋、神戸、医学部医学科

※2 早稲田、慶応、上智、東京理科、学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政、関西、関西学院、同志社、立命館

※3 理系高大連携推進委員会

※4 いじめ防止対策委員会